



西日本鉄道株式会社  
Nishi-Nippon Railroad Co., Ltd.



# まちに、夢を描こう。

道路や橋を整備し、建物をつくり、鉄道を走らせる。  
人の流れを創出し、地域の賑わいを育む。  
鉄道事業者の歴史は、まちづくりの歴史でもある。  
今年、創立107年を迎えた西日本鉄道は、地域に根を張り、  
地域とともにある成長を目指し、さまざまな「祭り」に参加、  
地域との一体感をさらに強固なものへと育てている。  
まちづくり企業としての想いを込め、  
新たに制定した企業メッセージ「まちに、夢を描こう。」——  
西日本鉄道株式会社 倉富純男代表取締役社長にお話を伺った。

西日本鉄道株式会社 代表取締役社長

## 倉富純男

Sumio KURATOMI

## 特集：祭りと地域コミュニティ

[西日本鉄道が育てる新しい「地縁」のかたち]

祭りもまちづくりも地域を支えること

——福岡・博多には1年を通して数多くの祭りがあります。地元企業として、これらの祭りにはどのように関わっていらっしゃるのでしょうか。

**倉富** 全国的にも有名なのは「博多どんたく」と「博多祇園山笠」ですが、博多どんたくでは花自動車運行し、パレードには「西鉄どんたく隊」として参加するのが伝統となっています。博多祇園山笠では、平成3年から「ソラリア飾り山笠」を奉納しています。また、全国から約90チームが参加して踊りを競う秋の「ふくこいアジア祭り」には、西鉄グループでチームを結成して参加していますし、北九州市の「わっしょい百万夏まつり」でも花自動車運行し、百万踊りに西鉄チームが参加しています。そのほか「小倉祇園太鼓」や久留米の「一万人のそらばん総踊り」にも、西鉄グループ社員が参加しています。福岡県下全体が事業エリアですから、それぞれのエリアで参加して、地元の皆さまと一緒に祭りを盛り上げています。

——企業が祭りの協賛金やロジスティクスの提供を行うケースは多々ありますが、交通事業者が直接参加するのは珍しいのではないのでしょうか。

**倉富** 大手民鉄の中でも、当社の地域への関わり方には、特異なところがあると思います。それは福岡市の地域事情でもあります。交通事業者は当社とJR、市営地下鉄の3社局で、民鉄と

して地域に根差して公共交通を担ってきたのは当社だけであるというのが大きいと思いますね。地域との関係性が強く、濃い。祭りも当然、協賛するだけではなく、地域と一緒に自分たちがつくってきたという自負があり、これからも支えていこうという決意があります。

私は、まちづくりと祭りは基本的には同じだと考えているんです。当社が拠点とする天神地区をはじめ西鉄沿線のまちづくりでは、私たちが土台となつて、時に押ししたり、引っ張ったりしながらその役割を果たしていきます。祭りも、担ぎ上げられるのではなく、私たちが担ぎ上げる役割を果たす。これが西鉄と地域との関わり方であり、祭りへの関わり方なのだと思います。

——博多どんたくの「西鉄どんたく隊」は、主に新入社員をメンバーに結成されると伺っています。

**倉富** 懐かしい話ですが、私も入社した年にパレードに参加しました。踊りが下手だったので、台車を押す係でしたが（笑）。例外はありますが、新入社員は原則参加するというのが当社の伝統です。

西鉄グループの企業理念は「『出逢いをつくり、期待をはこぶ』事業を通して、『あんしん』と『かいてき』と『ときめき』を提供しつづけ、地域とともに歩み、ともに発展します」ですが、新入社員にはパレードに参加し、地域の皆さまと一緒に汗をかくことで、この理念を身をもって体験しても

らいたいと願っています。

毎年、打ち上げの席で新入社員に話すのですが「西鉄は電車やバス、まちづくりで地域を支えていくことを目指している。君たちがパレードでかぶり物をした電車やバスは、社員である君たちが支えている。今日、沿道の方々喜んでいただいたように、君たち自身がお客さまに喜んでもらえる存在になつてほしい」と言っています。

博多どんたくのパレードは、社会の入り口に立ったばかりの新入社員が「地域の中の自分」を肌で感じ取ることができる非常にいい機会なんです。若い彼らの力が、地域の祭りを支えることにもなるので、今後も続けていきたいと思っています。

——パレードでは、社長ご自身も先頭に立って行進されています。

**倉富** 当社は、縁の下で地域を支える公共交通事業者ですから、表に出て脚光を浴びるというのは、本来のわれわれのポジションではありません。だから面はゆいんですが、ごくまれな晴れの場になっている（笑）。会社のPRにもなりますし、何より私自身、立場を超えて若い人たちと一緒に進行し、汗を流すのが楽しい。若い人たちに元気をもたらしています。

新たな企業メッセージを発信

——『みんてつ』23号（平成19年）では、天神地区のまちづくりについてお話を伺いました。

**倉富** 当時は、天神地区におけるエリアマネジメントの先駆けの時代でした。平成13年にグループの横断組織「天神委員会」を設置して天神地区の活性化を図る努力を続け、平成18年に発足した民間企業、団体、行政や市民から成るエリアマネジメント組織「We Love天神協議会」と連携を取りながらまちの発展に取り組んでいます。こ



約2年の歳月をかけて大規模改装を実施、九州No.1のファッションビルとして平成27年4月25日にグランドオープンを迎えたソラリアプラザ。

のまちづくりの大きな枠組みの中で、当社の交通事業や都市開発事業は「地域を一緒に支えていく」ことを土台として、活動を行ってきました。そういう意味でも、祭りは、当社の各事業の根本と通じ合うものがあるんです。

——継続して、まちづくりのムーブメントを牽引していらっしゃるんですね。

**倉富** エリアマネジメントを一体的・効果的に推進していくための指針として、We Love天神協議会が平成20年に発表した「天神のまちづくりガイドライン」の「10の戦略」に従って、まちの価値を高める活動を続けています。祭りやイベントは、戦略の中の「毎日がフェスティバル戦略」に含まれるものですし、「まちの新陳代謝戦略」や「ふさわしく絵になる戦略」に従って、当社の西鉄福岡（天神）駅に直結するソラリアプラザを大改装し、平成27年4月25日にグランドオープンを迎えました。併せて、天神高速バスターミナルも同年3月21日にリニューアルオープンしています。まちづくりの戦略がここに来て、ようやく形になってきました。

また、天神地区には建設されて40、50年が経過したビルが多いのですが、現在、再開発計画が進められています。国家戦略特区に指定されたことを受け、福岡市が進めている「天神ビッグバン」プロジェクトで、新たな空間と雇用の創出を目指し、今後10年で約30棟の建て替えが行われる予定です。

——そうした中、西鉄は昨年、新しい

企業メッセージを発表されました。

**倉富** 西鉄沿線にはさまざまなまちがあり、そこで暮らす方々、鉄道やバス、商業施設などグループ事業のお客さま、西鉄グループ社員など、多くの人があります。一人ひとりの、皆の、夢や未来を企業理念に沿って実現している。そんな想いを込めて、新しい企業メッセージ「まちに、夢を描こう。」を制定しました。このメッセージには当社の「積極的に事業を展開する」基本方針と、「まちに夢を描く」「悩んだら、夢を描く方を選ぶ」行動指針を込めており、さらに「私たちは夢を描いていきます」という地域への宣言であり、約束でもあります。

——どの部署、どの業務にも当てはまり、社員のやる気を鼓舞しますね。

**倉富** 昨年の9月22日、創立記念日に制定したのですが、グループ内の各社、各部門で、大小にかかわらず、それぞれ夢を前面に押し出して前向きに事業を展開しましょう、あるいは長期ビジョンを描いてくださいと、全社を挙げて取り組んでいるところです。

この1年、私も「表に出る人も裏方の人も、さまざまな形でまちの発展に貢献している」という意識を常に持とう。裏方の立場から誰かの夢を支えることも夢の一つとなる」と、繰り返し社員に話をしてきました。地味な仕事でも、誇りをもって取り組む。例えば、お客さまにお茶をお出しするのも、心を込めることによって、企業メッセージを伝えることができる。す

べての業務が一翼を担っていると  
思います。

——新しい企業メッセージは、どのような経緯でつくられることになったのですか。

**倉富** 当社は毎年、企業イメージ調査を実施しているのですが、その結果を見ると、私たちの持ち味や取り組んでいることがお客さまに伝わっていないように感じました。そこでまず、自分たちが取り組んでいること、前向きな企業であることや社員が常に明るく仕事に取り組んでいるという事実をきちんと伝えていこう。それを自分たちの行動指針にして、お客さまに明快に伝えていこうと考え、企業メッセージを変更することにしました。

平成5年から発信していた企業メッセージは「人へ、社会へ、あしたへ動く」というものでしたが、新しい企業メッセージは、もっと具体的で、分かりやすい、伝わりやすいものを目指しました。社内横断組織でブランドづくりに取り組んでいるブランド委員会というチームがあり、その委員会が中心となって議論を重ね、国内外の従業員から何度もヒアリングを行って決まったのが「まちに、夢を描こう。」です。海外にも従業員が2000人ほどいるので、彼らに意見を聞くと、自分たちが伝えたい気持ちには「Connecting Your Dreams」であると。直訳すると

「あなたの夢を繋ぐ」ということになり、英語

ではこのフレーズで発信するようになりました。

いずれも自分たちがやりたいこと、伝えたいことを発信できるメッセージを目指して、社員が議論してつくったので、非常に分かりやすい企業メッセージになったと思います。今では、社員も口々に「まちに、夢を描こう。」と発信していますし、私自身も海外の会議での発言や挨拶では、いつも「Connecting Your Dreams」で締めくくっています。

**全員参加型で積極的に取り組む**

——福岡市の公共交通の担い手として



平成25年の博多祇園山笠・集団山見せでは、台上がりを務めた。



平成27年の「西鉄どんたく隊」のテーマは「まちに、夢を描こう。」

は、観光客が増加する中、どのような対策を取られていますか。

**倉富** 国の政策もあり、特にインバウンドの伸びは目覚ましいものがあります。まちを歩いていても外国語が飛び交って、活気がある。福岡市がインバウンド対策に本気で取り組んでいることが大きいのではないのでしょうか。「We Love天神協議会」でも、インバウンド対策を拡大しています。

4カ国語表示も当たり前になってきていますし、西鉄福岡（天神）駅が入るターミナルビルには、観光案内所や両替所など国内外の観光客にとって必要な施設を集めています。天神地区における周遊観光の拠点づくりや免税店の設置など、行政も応援してくれてお

り、非常にいい関係の中で環境整備を進めています。

バス事業では、外国人専用のバスツアー商品をつくりましたし、空港からダイレクトに太宰府に向かう路線も設置しました。外国語を学ぶ運転士もかなり増えてきて、「韓国語で見事な対応でした」というようなお褒めの言葉も時折いただくようになりました。また、鉄道事業では、太宰府観光列車「旅人」の運行を昨年から開始しています。

また、市内都心部に分かりやすい幹線軸をつくるため、天神地区・JR博多駅周辺と、ウォーターフロントの3拠点を結ぶ「都心循環BRT（バス高速輸送システム）」に福岡市と協働で取り組んでいます。平成28年より連絡バスの導入を開始し、平成32年までには約10分間隔での本格運行を目指しており、インバウンドを含め増加する都心部の交通需要に適切に対応していきます。

——祭りも福岡の大きな観光資源ですが、国内外の観光客数の増加で、さらに人気が高まっているのではないのでしょうか。

**倉富** それはありますね。もともとこの地は大陸に向いているので、昔から海外の方を受け入れる風土があります。福岡・博多の人々は基本的にウエルカム精神で、「一緒に楽しもう」「一緒に頑張ろう」という意識が強い。そ

れが、インバウンドを受け入れる意識につながっているんですね。

そういう風土、土地柄が祭りそのものにも生きています。博多どんたくなどは、海外の方々も大勢パレードに参加されていますし、伝統行事である博多祇園山笠にも地元以外の方が参加されている。ウエルカムな福岡の祭りは、さらに大きな集客資源となると思います。

——西鉄も非常にオープンにさまざまなものを受け入れ、次々と新たな取り組みを展開されています。

**倉富** 新しいものはなんでも取り入れる土地柄ですし、社内でも、とにかく全員参加型で取り組んでいます。開放性をもって、受け入れるべきものは受け入れ、至らない所は改めます。

創業以来、当社の行動指針は一貫して、107年間、まちに夢を描き続けてきました。改めてそれを確認して、分かりやすく表したのが、今度の企業メッセージです。このメッセージは私どもがこれまで積み重ねてきた歴史そのものなんです。

先輩たちがまちに夢を描いて、天神地区に電車を走らせ、都市形成を手掛けてきたように、私たちが安全という土台の上に、夢を描いて、交通や不動産、流通な

どさまざまな事業で、まちづくりを引き継ぎ、発展させていきます。まさに「オッシュイオッシュイ」と祭りの気概をもって、事業に取り組んでいるんです。現状維持のままでは衰退します。「じっとしているわけにはいかん」という感じですね。社員も皆、理解を深めてくれて、新しい企画がたくさん出てきています。

——最後に今後の抱負をお伺いしたいと思います。

**倉富** これからも天神地区をはじめ沿線が明るいまちであり続けていくこと、西鉄グループ全体をさらに活力ある企業風土にして、一層明るく、そして誇りが持てる会社に成長させることが私の目標です。

まちに夢を描くことを各社、各部門が積み重ねていくことが、グループの誇りになり、ブランドになる。グループ一丸となって、日々、それを行いな

